10 year story
十年物語 ～おおさき人の軌跡～

10年を振り返り 新たな10年へ歩みだす

誰もが気軽にスポーツを楽しめる社会へ

～ 大崎市スポーツ推進委員協議会 ～

大崎市スポーツ推進委員協議会
会長　千坂（ちさか） 善悦（ぜんえつ） さん

活動の概要

スポーツ振興法に基づいて各自治体に設置が義務付けられてきた体育指導委員が、平成23年のスポーツ基本法の施行によりスポーツ推進委員となる。7地域間の連携を図りながら、誰もが、いつでも、どこでも取り組める生涯スポーツを推進し、市民の要請に応えながら、各種活動を展開している。

スポーツ推進委員は、誰もが、いつでも、どこでも気軽に取り組めるニュースポーツなどを通じて、市民の健康づくりや生涯スポーツ思想の普及に努めてきました。

現在、市内あわせて88人の推進委員が、市民やコミュニティの要請に応える形で、ニュースポーツ大会などの企画・運営・指導を各地域ごとに行っています。

いま、市内でも盛んに行われているパークゴルフは、老若男女、誰でも気軽に楽しく取り組めて、仲間づくり、健康づくりにもなるニュースポーツです。三本木地域に新しくパークゴルフ場ができることをわたし自身、楽しみにしています。

現在、わたしたちは、ノルディックウォーキングの普及を目指しています。ノルディックウォーキングはクロスカントリースキーの夏場のトレーニングとして、フィンランドで始まりました。ポールをつきながら歩く全身運動ですので、普通にウォーキングをするよりも、運動効果が高いのが特徴です。生涯学習課では、市内7地域のウォーキングマップを作成し、7地域を順に巡る体験会も開催しています。歩くことは、健康への第一歩です。ぜひ一度、体験していただきたいと思います。

始めてみませんか
ノルディックウォーキング

これからは、高齢者や障害のある人たちが、気軽にスポーツに親しめる場を提供するなど、地域に愛されるスポーツ推進委員を目指し、活動を展開していきます。

文化の輪、人の輪を広げていきたい

～ 大崎市文化協会 ～

大崎市誕生とともに、地域の垣根を越えた連携や交流を促進し、大崎の文化を振興させるため、7地域の文化協会が手をたずさえて大崎市文化協会を設立しました。

会員の発表の場として秋に行われる市民文化祭は、各地域の文化協会単位で開催されていますが、毎年、地域の輪番で「総合開会式」を開催しています。7つの旧市町の個性を大切にしながら、「大崎はひとつ」という思いを胸に、昨年は鹿島台を会場に「七虹祭（なこうさい）」と銘打って、各地域の演目が披露され、大変好評を得ました。

松山コスモス祭りで披露された
鹿島台地域の深谷神楽（ふかやかぐら）

伝統芸能に触れてもらうため、松山地域ではコスモス祭りで神楽や獅子躍を披露する場を設け、演者、参加者ともに盛り上がりをみせています。その他の地域では、小学生を対象にしたお茶や生け花の体験行事など実施し、文化を後世につないでいくきっかけづくりを行っています。今後は、若い世代への継承方法を模索したり、地域と行政と連携しながら、市民の文化芸術活動を大崎市文化協会として支えていきたいと思います。

会員の減少や高齢化が、地域共通の課題となっていますが、行政との対話や連携から、今以上に文化の輪、人の輪を市内全域に広げていきたいと思います。皆さんで芸術文化活動を楽しみませんか。

大崎市文化協会
会長　手代木（てしろぎ） 亮一（りょういち） さん

活動の概要

平成18年大崎市誕生とともに、1市6町の各文化協会が結集し大崎市文化協会を設立。文化活動の振興や市民の教養の向上を目的に活動を展開。現在は、210団体・3,014人（平成27年4月現在）が加盟している。毎年秋に行われる市民文化祭は、約半月にわたって各地域で開催され、1年間の成果を披露する。

つながる・むすぶ・つむぐ 姉妹都市のきずな

「絆」いっそう固く 姉妹都市交流サミットを開催

遠くの地から思ってくれる仲間

本市では、平成18年の合併以前に旧市町が締結した姉妹都市、兄弟町、友好都市、交流都市の盟約を引き継ぎ、この10年間、自治体間はもちろん、企業間、市民間においても交流を深めてきました。

東日本大震災被災時は、それぞれの自治体からいただいた物心両面にわたる絶大な支援が、復旧から復興への大きな力となり、遠く離れていても本市に思いをめぐらせてくれる仲間がいることが、いかに大切かを改めて感じさせられました。

地方創生と姉妹都市交流をテーマに

9月10日、岩出山地域のスコーレハウスを会場に、大崎市誕生10周年記念事業「姉妹都市交流サミット」を開催しました。

本市と盟約を結ぶ、山形県酒田市、東京都台東区、大阪府田尻町、山形県遊佐町、愛媛県宇和島市、北海道当別町、神奈川県横浜市港南区の7つの自治体の代表者に出席いただき、それぞれの自治体が進めている地方創生戦略やこれからの姉妹都市交流のあり方について、お話をいただきました。

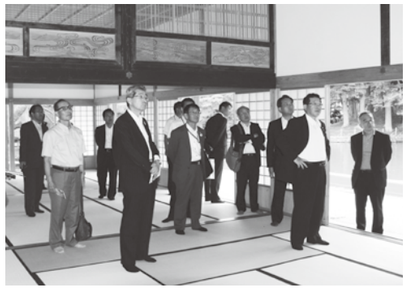
新たな交流の芽吹きに期待

サミットの結びには、交流をより深めながら、8つの自治体の発展のために共通する、まちづくりの指針を掲げた「姉妹・友好都市交流2016」大崎市宣言を採択して幕を閉じました。

人口減少社会を迎えたいま、新たな交流の芽吹きに期待が寄せられるサミットとなりました。

姉妹都市交流サミット参加自治体（盟約締結順・敬称略）

都市名	盟約締結月日	出席者
酒田市（友好都市）	昭和57年 7月 9日	樋渡（ひわたり） 由（ゆう） 松山総合支所長
台東区（姉妹都市）	昭和59年 1月14日	荒川（あらかわ） 総一郎（そういちろう） 副区長
田尻町（友好都市）	平成 3年10月10日	栗山（くりやま） 美政（よしまさ） 町長
遊佐町（兄弟町）	平成 4年10月30日	本宮（もとみや） 茂樹（しげき） 副町長
宇和島市（姉妹都市）	平成11年 3月27日	三好（みよし） 伊佐夫（いさお） 副市長
当別町（姉妹都市）	平成12年10月12日	宮司（みやじ） 正毅（まさき） 町長
港南区（交流都市）	平成14年 4月10日	佐藤（さとう） 英一（えいいち） 総務課長



▶サミット翌日、旧有備館および庭園を訪れた参加自治体関係者の皆さん。震災からよみがえった有備館の姿、大崎市と当別町との関係など、説明に耳を傾けました